

# 広告



# 今の努力が未来の成果につながるように

明けましておめでとうございます。  
謹んで新年のご祝詞を申し上げます。  
市民の皆さまには、輝かしい希望に満ちた新春を  
健やかに迎えのことに、心からお喜び申し上げます。

昨年を振り返りますと、6月に新たな電気文化を目指す石狩湾新港地域での超電導直流送電プロジェクトがキックオフとなりました。産学官を代表する多くの方が参加され、新しいエネルギープロジェクトに関する皆さまの大きな期待を感じました。

また、10月には中学生交流訪問に併せて、沖縄県恩納村との「友好都市協定」および「災害時等相互応援協定」の調印を行いました。恩納村とのつながりはすでに23年、中学生は延べ670人が交流してきた歴史がありますので、この調印式は感慨深いものであります。

さて本年は、昨年の暮れに制定され、北海道で初の取り組みとなります「手話に関する基本条例」が施行されます。この条例は、福祉施策的観点からの取り組みではなく、手話を使っている方々が、「言語である手話を使って心豊かに暮らす」という、人が生きていく上で欠くことので

きない、「言語である手話」に対する理解の広がりを実感できるまちを目指しました。これは地域社会の実現であり、地域からの挑戦であると考えています。

また、平成6年に国際貿易港としてスタートを切った石狩湾新港は、今年で20周年を迎えます。開港以来、外貨貨物量は大きく増加しました。今年石狩湾新港の国際貿易港としての魅力を積極的に発信していきたいと思っております。

本年は、国の「社会保障と税の一体改革」の具体化や消費税等われわれの生活に直接影響を及ぼす制度改正が行われることとなります。また、政策のほとんどが審議中の案件であり、この先制度がどのように変わるのか不安に感じている方も多いと思っております。

しかし、どんな状況になっても、今得ることが出来る成果はこれまでの先人たちによる努力の積み重ねであること、そして、努力を続けていけば未来は世間が考

えている以上に明るいものだということ、子どもたちやこれから生きる世代に伝えなければなりません。

そのためにも、市民の皆さまとの協働を通じ、今の努力が未来への成果につながる市政運営に取り組んでまいりたいと存じます。

来月は、いよいよソチオリンピックが開幕となり、多くの道産子選手の活躍が期待されます。さらに2020年には東京オリンピックが開催されることが決まり、久しぶりに日本が明るいニュースに包まれました。

この一年が皆さまにとりまして幸多き、健やかな年となりますことをご祈念申し上げます。新年のごあいさつとさせていただきます。

平成26年 新春

石狩市長 田岡克介

